

大阪府立清水谷高等学校

創立百二十周年記念式典 挨拶

本日、大阪府立清水谷高等学校、創立百二十周年記念式典をここに開催できますことは、校長として誠に慶びに堪えません。実行委員会委員長の労をお取り頂きました清友会会長の須藤隆二様には心より感謝申し上げます。有難うございます。

またご臨席賜りました大阪府教育庁 教育振興室 長 大久保宜明様、大阪府立学校長協会 副会長 澤田佳典様、誠に有難うございます。そしてこの式典を二年越しでご準備いただいた清友会役員の皆様、PTAの皆様、本当に有難うございます。

創立百二十周年記念事業では、記念誌発行等と共に清友会の同窓生の皆さまのご寄付で清水谷高校の食堂をリニューアルして頂き、食堂としては「くすのキッチン」に、学習スペースとしては「清水谷 Learning Studio」に生まれ変わりました。

学習スペースとして利用する探究活動は、新しい時代の学習の大きな柱の一つで、多様性の尊重や共生が地球環境の持続のために鍵となる時代に、答えが一つでない問題や、正解のない問題を生徒同士が協働して考える大事な場になります。

「くすのキッチン」の名は生徒の皆さんの公募で名づけられました。清水谷高校の校舎の中心に聳える大クスの樹をモチーフにしたものでしよう。

「我が魂はこの土に根差し 決して朽ちずに 決して倒れずに 我はこの丘 この丘で生きる」で始まる福山雅浩さんの「クスノキ」は、「幾百年越え 時代の風に吹かれ 片足鳥居と共に人々の営みを 歓びを かなしみをただ見届けて」と続きます。明治から令和へと続く百二十年の歴史の中で、清水谷高校のクスノキも自らはひたすら空を

目指しながら、その袂を歩き交う多くの卒業生を見届けて来たのだらうと思います。清美館前には昭和二十年六月一日に校庭で被爆された方々の冥福を祈る石碑もあります。さあ、生徒の皆さん、今は皆さんの番です。新たな時代の新たな一頁を

一人ひとりの主体性と個性でどう描いていくのか、切り開くかを考えてほしいと思います。先輩達が築いて来た歴史と伝統を踏まえつつ、清水谷で学んだことを糧に、どんな世界に飛び出すのか。自分が好きなことを見つけてそれで社会に

貢献するのも良いし、ただ目の前の道を一生懸命に進む中で何か掴むことがあるかもしれない。人生の紙飛行機はその距離でなく、どう飛んだかどこを飛んだかが一番大切ですね。是非「The blue-sky is the limit.」「青天を衝く」気持ちで、

チャレンジ精神を持って、何事にも挑戦して貰いたいと思います。我々教職員もあのクスノキ同様に皆さんを見守りながら、出来る限りの応援をしたいと思います。それが、「学びの庭に光あれ 学びの友に栄あれ」と校歌に歌う清水谷高校の伝統を後世に引き継ぐことになるのだと思います。結びに、この式典に参加しているすべての皆さんの幸せを祈念して挨拶とします。

令和四年十月二十日

大阪府立清水谷高等学校

校長

日笠

賢

